

1.Noise or Note

In a silent way

アルバムの冒頭部、In a Silent way は、フュージョン音楽の幕開けというべき珠玉の名曲。



ここからマイルスデービスは、エレクトリック化、ウェザーレポートが花開いていきます。今回このアルバム制作にあたり、齊藤氏からの提案で、この曲はアレンジ、フィールドレコーディングを行なったハーレーエンジンと共に、能見誠の新ジャンルへめての記念すべき楽曲となります。

B-blues

クロスフェードの形で躍動するオリジナル作品 B.blues が」登場。B は、Bass の”B" Bike の”B" 濃霧誠、齊藤高広の演奏部以外は、Pad にアサインさ f れた、バックトラック、バイク音で、ライブ再演可能。全く新しい演奏スタイルで構成されています。

2.Momiji-MA

2017 年、能見誠、カルメンラプソディ 全7曲の組曲を発表しました。（広島市佐伯区民文化センター音楽ホール）その中の 3 曲目を取り上げ、コンセプトに基づく再構築を行なった作品です。原曲は、ハバネラ

(この曲は、ビゼー作と、言われていますが、本当は、キューバの楽曲が元です、) です。2017年 制作時で、このハバネラを、従来の調性をダイアトニックという近代和声学の元に作り直しました。その中のアッパー・ストラクチュアという考え方のも元、2つの調整が存在する透明感あるイメージで仕上りました。

この楽曲に関しては、キーボードワークは打ち込みによるデジタルトラックによるでレコーディングは終了。ミックスダウン時に出来上がったトラックは理路整然とありました。でも面白みがなく、、、没トラックになる寸前、新たな Noise を創る。試みとして、縦をズらす！つまり、この楽曲は、コントラバスとバックトラックがズれています。

楽音の基本概念を、指定された時間に指定された高さ、大きさ、長さで存在すると、」この楽曲は、全て、Noise=雑音となります。またキーボードの音色がスターから、エンドまでの間でクロスフェードしています。つまり、この音楽の中にはどの瞬間として音楽としての音 (Note) が存在していない事になります。

この不条理をカルメン自身の心の葛藤を想像して作りました。

後半のカウンターメロディで、オペラ上で、登場する、ホセの許嫁（いいなづけ）ミカエラのアリアのモチーフを演奏しています。これは、和声的には共存させています。違和感がない、、と感じていただけすると幸いです

3. 龍神

能見誠オリジナル曲 Winds を、嚴島神社奉納演奏にて、演奏された後、龍神として再構築。龍の鳴き声からスタートし、海深くに眠っている龍が目を覚まし、漂いながら空へ昇天していく様を描いている。共演者の齊藤高広氏のキーボード演奏、マスタリングが素晴らしい。

4.Y.E.L.L (エール)

この曲は嚴島神社奉納を実現してくれた香川裕光との共同制作で発表した「良き日」

この楽曲制作のために提出した楽曲をアレンジして制作したものです。

元々、能見誠提出時に、作曲した時、モチーフとした楽曲は”チャイコフスキイ交響曲第5番ホ長調作品64”です。能見が若いとき、ひたすら憧れ無心でオーケストラを演奏していた象徴のような曲。その純粹さ、直向きさを、次の世代に想いを込めてYELLとしました。その後、アレンジ。2021年、震災10年の記念ライブ(仙台)で今の形になりその後、レコーディング。若いアーティストへのエール、震災被災者へのエール、様々な想いを込めて演奏されています。

5 .Libertango

能見誠、珠玉の1曲です。圧倒的な存在感を示す楽曲。人は自由を思うとき、それは切なく、悩ましく、戸惑う。。。。。その先に刹那に壊れゆく旋律に追従するも、また消えゆく、、、自由を手に入れる時の心情を表現しています。

6.Virgin Road

アルバム唯一のコントラバスソロ曲。2016年結婚式での花嫁入場の際、実際演奏された楽曲。コントラバス独自の定番フレージングを使っています。